

# 検査時に於ける患者衣服汚染防止の一工夫

内視鏡室 発表者 御子柴 清子

齋 藤 安 江・横 山 此の笑

はじめに

現在、内視鏡室でおこなわれる検査には、咽頭・気管・肛門を通るそれぞれの直達鏡、ファイバースコープによるものがあります。ファイバースコープ類の先端部は、操作により各腔内で2～4方向に彎曲でき、必要に応じて通水可能なものを使用されており、挿入後病変部発見まではいろいろに操作され、刺戟により咽頭を通るものでは、胃液、胆汁等の逆流、唾液の流出により検査体位が、左側臥位をとるため患者の左顔面及び左肩を汚染し易く、肛門を通るものでは残留浣腸液や便の流出、薬品等により衣服を汚染し易く検査時間も長いため、感染防止、ならびに患者さんが冷えない様に、又肛門部からの検査という羞恥心を取除くためにも、どのようにしたらよいか考えた上、それぞれ被覆できるものを作り使用してみました結果を報告します。

工夫Ⅰ 検査用肩覆い

材料 既製の洗濯用ビニール覆い（ウルトラクロス、マジック付き）

左側になる部分と下端をカットしました。これは左側臥位の場合、顔面に覆がかぶさってこない様にするためであり、又長すぎても使用しにくい。検査台より多少垂れ下がる程度にカットしました。頸部のマジック止め具は2ヶ所についているため頸部の太い患者、細い患者でも調節できます。

使用方法 患者を検査台上げ仰臥位で腹式呼吸の練習後、落ち着いたところで今度は左側臥位をとります。介助し乍ら説明し肩覆をつけます。患者の肩及び枕、検査台上部全体を覆う様に垂れ下らせ、次にティシュペーパー2、3枚を左顔面に当てます。唾液等の少々の流出ではペーパーが吸いとりほとんど汚れません。汚れた覆はその都度取替え水洗して乾燥し再使用します。

結果 覆は使用開始してより約2年になりますが、最初から使用しているものでも多少色が変わったり頸部止め具のはつれがあった程度で、補修して充分使用でき患者衣服の汚染は100%防止できる様になりました。

工夫Ⅱ 検査用ズボン（スライド）①

材料 厚手の白木綿……洗濯に耐えられるもの。

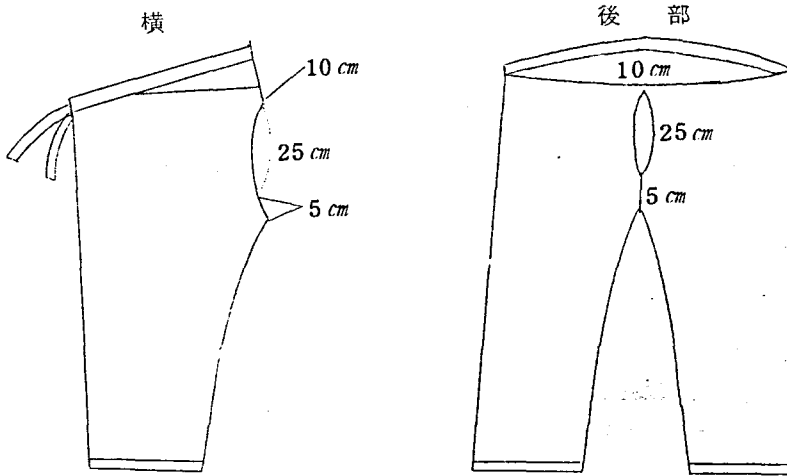
手術用ズボンL型の大きさで、股上後部の縫い目を上は10cm下は5cmとし、中央を開けてはつれない様しっかりと縫ってあります。

使用方法 患者の下ばきをぬいでいただき、ズボンにはき替えます。特に初めての方は何をされるかと不安が強いので介助しながら説明します。腹部のひもはゆるめにしぼります。（スライド）②

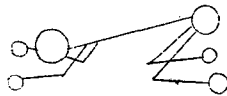
結果 検査中の体位転換も楽におこなえる様になり保温にもなり、患者の羞恥心も除去されたと思われます。L型にしたのは肥満型の患者でもほぼ間に合うためであります。汚染されたものは

検査用ズボン

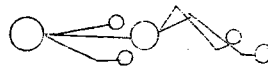
スライド①



大腸ファイバー検査体位と平均所要時間



A 挿入時



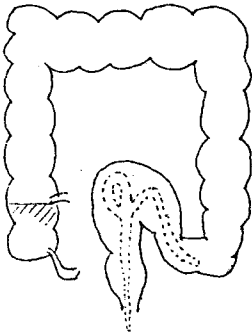
B 検査中

スライド②

10分～

逆の字のループをつくり  
下行結腸へ

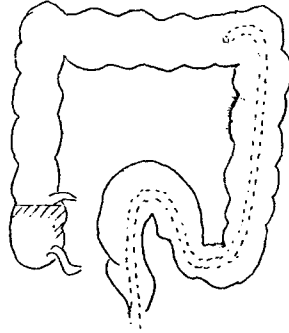
1



20分～

先端を横行結腸へかける様  
にしてループをとく

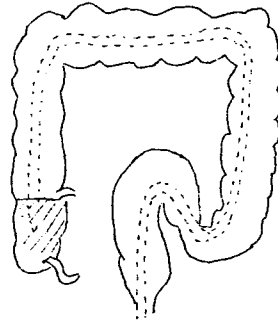
2



30分～

先端は盲腸まで入る

3



テレビ室で所要時間 40分～1時間 30分位(透視時間 30分～1時間)

薬液(3~5%クレゾール液)につけたのち水洗しクリーニングに出します。

おわりに

肩覆使用前は、流出液を止めるためティシュペーパーは一人の患者に一箱以上も使用したり、又背部までまわることもあり、シャツをもみ洗して乾燥してあげたりあと始末にも時間をとられました。又ズボンは最初足袋を使用しゴムシートと臀部の間に布を当てたりしましたが、腰部・陰部を覆えないため長時間の検査に対して冷えたり、精神的にも影響が悪いと思われました。患者数も増加し汚染を最小限にすることが先になり肩覆や、ズボン使用前のはっきりした調査ができなかったこと等不手際がありましたが、患者に対しては苦しい検査の上に多少なりとも衣服が汚染されるという不快感を取除くことができたこと、日常業務の中で汚染の後始末がやり易く簡単になったこと等、大きな役割を果たしているものと思われ、ティシュペーパーやアトム内診シート等材料の使用が半減したこと等節約にもなりました。尚検査については充分注意していてもショック等予測も考えて更衣しておけば緊急の処置にも手ぎわよく介助できます。日頃どんな小さな事でも目を向けて考え、業務をおこなう事の大切さを感じました。患者が安心して検査を受けられる様小さな工夫を発表しました。